

モニタリング結果報告書 (令和2年度)

1. 施設概要

施設名	神奈川近代文学館		
所在地	横浜市中区山手町110		
サイトURL	https://www.kanabun.or.jp/		
根拠条例	神奈川県立神奈川近代文学館条例		
設置目的(設置時期)	近代文学に係る図書及びその著者の遺品等を収集し、整理保存し、及び展示し、並びに近代文学に係る図書を閲覧に供するとともに、併せて県民に文化活動の場を提供するため。 (昭和59年4月)		
指定管理者名	公益財団法人神奈川文学振興会		
指定期間	H28.4.1 ~ R3.3.31 (2016年) (2021年)	施設所管課 (事務所)	文化課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>※新型コロナウイルス感染症が3項目評価(利用状況、利用者満足度、収支状況)に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。</p> <p>令和2年度は、当初の開館予定日数288日(展示室)に対し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館日数が約40%となった。年間展示入館者数は8,902人となり、前年度45,949人の19.4%と大幅に減少した。収入も大きく落ち込んだが、支出について減額補正により執行額を抑制し、収支の均衡を図り、収支比率100%となった。利用者数は減少したものの利用者満足度は高く、3項目評価はB評価となった。今後も多様な分野の展示や集客力のあるイベントを実施し、近代文学及び近代文学館への興味を喚起できる取組の充実を期待する。また、展覧会入場に係る事前予約制の導入やWebコンテンツの拡充等、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した取組の推進に期待する。</p> <p><各項目の詳細説明></p> <p>◆管理運営等の状況 年間の展示室入館者数は前年度まで6年連続で4万人台を記録し好調を維持していたが、当初の開館日数の約40%を臨時休館したため8,902人となった。3月から開催した特別展「新青年展」では、コミックス等とのコラボレーションにより若年層の来館が増え、10日間で1,400人が来場した。</p> <p>◆利用状況 展示室・閲覧室・会議室の利用者数は、目標の67,000人を大きく下回る14,066人となり、目標達成率は21.0%でC評価となった。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館や施設の利用自粛依頼を行ったことが要因である。</p> <p>◆利用者の満足度 9月～11月の特別展「大岡昇平展」(入場者数4,440人)の実施時期に来館者とホームページ閲覧者を対象に満足度調査を行い、上位2段階の回答割合が98.9%となったため、S評価となった。回答数は、来館者アンケートでは昨年度の307件から117件に減少したが、回答率は2.6%と同水準を維持した。Webアンケートの回答数は154件から16件と、大幅に減少した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ワークシートやWebアンケートのリンクQRチラシ等を配布できなかったことが要因と思われる。</p> <p>◆収支状況 前年度と比較すると、臨時休館の影響で大幅に減収した。支出について減額補正により執行額を抑制し、収支の均衡を図った。収支比率は100%でA評価となる。</p> <p>◆苦情・要望等 来館者から寄せられた要望等については、近代文学館で適切に対応した。</p> <p>◆事故・不祥事等 経年劣化による設備の不具合が各所で続いている旨、近代文学館から報告を受けている。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p> <p>◆その他 令和2年度の3項目評価についてはB評価とした。</p>	
3項目評価	<p>S : 極めて良好 A : 良好 B : 一部改善が必要 C : 抜本的な改善が必要</p> <p>※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう</p>
B	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	月2回程度	
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>・より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。(集客を目指す展示、独創性のある展示、他機関との連携など、事業の広がりを意識した展示など)</p>	<p>4～5月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 6～9月 常設展「文学の森へ 第1部」(併設:コーナー展示「新収蔵・夏目漱石資料」)入場者数2,374人 10～11月 特別展「大岡昇平の世界展」入場者数4,440人 12～3月 スポット展示・収蔵コレクション展19「生誕100年金達寿展」(常設展「文学の森へ 第2部」併設) 入場者数688人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1月12日から3月14日まで臨時休館 3月 特別展「創刊101年記念展 永遠に『新青年』なるもの」入場者数1,400人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約者のみの観覧</p>	<p>当初県から出ていた8月31日までの全館休館要請を受け、春の特別展「大岡昇平の世界展」を秋に延期し、5月下旬から開催を予定していた企画展「三浦哲郎展」、7月下旬から開催を予定していた「佐藤さとる展」を、それぞれ令和3年度の同時期に延期した。緊急事態宣言の解除により、6月13日から感染症対策を講じた上で再開。コロナ第3波の影響で「生誕100年金達寿展」会期中の令和3年1月12日から3月14日まで再び臨時休館した。春の特別展「創刊101年記念展 永遠に『新青年』なるもの」ではコミックスとコラボレーションを実施。3月20日から予約者のみの観覧を受け入れた。年度内の臨時休館日数は予定していた開館日数(展示室)の約40%に達した。</p>
<p>・館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。</p>	<p>スポット展示・収蔵コレクション展19「生誕100年金達寿展」では館蔵資料を活用し、作家の生涯と作品を顕彰し、好評を得ることができた。</p>	<p>近代文学館の所蔵する貴重資料を活用し、過去に各分野で一時代を築いた作家の紹介にも配慮している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2度目の県要請による休館措置に従い、会期21日間で中断、臨時休館せざるを得ない状況となったのは、残念なことであった。</p>
<p>・特別展や企画展と連携した講演会、朗読会、講座、映画会などの企画を開催し、利用者のニーズに応える。</p>	<p>4～5月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 5月 ホームページに「デジタル文学館」メニューを新設 (以下を順次追加) フォトムービー(スライドショー) 「中島敦 横浜の日々」 「中島敦の南洋群島」 「アルバム『娘と私』」 「獅子文六(岩田豊雄)のパリ」 「獅子文六と横浜―「父の乳」から―」</p>	<p>展覧会に連携した講演会、文字活字文化振興を目的とした講談会等の各種イベントを実施した。当初県から8月31日までの全館休館要請が出ていたため、展覧会の会期変更が必要となり、講演会等のイベントも日程変更となった。開催時の感染対策として、< >内の割合に定員を絞って実施した。休館期間を中心に行ったオンライン事業では、動画視聴数の年度内合計が4,334件となった。</p>

	<p>6～9月 (かなぶんキッズクラブ <映画会、紙芝居、 絵本の読み聞かせほか> [中止]) (「被爆とわたくし」DVD上映会 [中止]) (朗読コンサート [中止])</p> <p>7月 ホームページで横浜山手文学散歩地図を 公開</p> <p>10～11月 ※<>内に定員を減らして実施 大岡昇平展記念講演会 3回<70%> 同 展ギャラリートーク 6回<70%> (「大岡昇平展」記念上映会 2回<70%>) (「文字・活字文化の日」記念行事 <ギャラリートーク> 1回<70%>)</p> <p>11月 「デジタル文学館」への追加 池澤夏樹講演「『レイテ戦記』を 読む」(ガイデスト) 島田雅彦講演「さすらう離脱者」(ガイ デスト)</p> <p>12～3月 (子ども読書活動推進フォーラム (オンライン配信) 1回) (かなぶん連句会 1回<50%>) 金達寿展講演会 1回<50%> 同 展上映会 1回<50%></p> <p>1月 「デジタル文学館」への追加 「『民族詩人金芝河(キムジハ)のタ ベ』における金達寿の所感」</p> <p>3月 新青年展ギャラリートーク 1回<50%> (かなぶん寄席(講談会) 1回<50%>) (かなぶんキッズクラブ 映画会 1回<50%> 紙芝居(オンライン配信) 1回) 「デジタル文学館」への追加 小林信彦「乱歩の二つの顔」(ガイデ スト)</p>	
<p>・専門館として文学のレファレンスにきめ 細かく対応する。〔参考〕レファレンス： 文学に関する情報や資料の各種問合せに 対し、仲介的な立場から援助するサービ ス。利用案内、資料提供なども含む。専 門的な質問も多く、公共図書館等他施 設からの照会もある。</p>	<p>レファレンス件数 134件</p>	<p>利用者からの様々な問合せ に対応し、専門的施設とし ての役割を果たした。臨時 休館中も、電話や電子メー ル等によるレファレンス、 郵送複写の問合せには対 応。令和3年3月20日か らは事前予約者の閲覧を受け 入れた。</p>

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

5. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和2年度
利用者数※	70,427	73,007	14,066
対前年度比		103.7%	19.3%
目標値	66,000	66,500	67,000
目標達成率	106.7%	109.8%	21.0%

目標値の設定根拠：

経営改善目標

利用者数の算出方法（対象）：

観覧券の枚数、受付係員がカウント(展示観覧者数)＋閲覧カウンター職員がカウント(閲覧室利用者数)＋利用申請者が予約システムに入力した人数(会議室利用者数)

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】

(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

当初の開館予定日数288日(展示室)に対し、臨時休館日数が約4割を占めることとなった。年間展示入館者数は8,902人で、令和2年3月4日から臨時休館となった前年度(45,949人)に比べても19.4%と大幅に減少した。当初県から出ていた8月31日までの全館休館要請を受け、展覧会会期の変更を行ったため、GWを含む春の特別展、収蔵コレクションによる企画展、親子連れが多く訪れる夏の企画展が開催できなかった。6月13日から感染症対策を講じた上で常設展(9月27日まで)での再開となったが、この期間の観覧者数は2,374人で、前年度同期間(31,890人)の7.4%であった。また、前年度同期間の館内開催イベント参加者は計3,689人であった。閲覧室が休室した4月1日～6月12日の前年度同期間の利用者は1,718人、会議室の利用を停止した4月10日～8月31日の前年度同期間の利用者は4,859人であり、イベントも合わせ計42,156人の利用者数を失った。

②令和2年度の対応状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度「獅子文六展」会期中の3月4日から継続して臨時休館していたが、4月7日に県から8月31日までの全館休館要請を受け、展覧会等の大幅な日程変更を決めた。5月25日の緊急事態宣言解除により6月13日から常設展(9月27日まで)での再開となった。入口に消毒液、検温器を設置、受付等にアクリルパーティションを設置し、物品の消毒、換気等、ガイドラインに沿った感染対策を行った。会議室については引き続き8月31日まで利用停止となった。秋の大岡昇平展では、講演会等イベントの定員を70%に設定した。満席で参加できなかった方や来館を控えた方のために、DVDを作成し頒布した。第3波の影響で「生誕100年金達寿展」会期中の令和3年1月12日から再び臨時休館となったが、3月20日から事前予約制により特別展「創刊101年記念展 永遠に『新青年』なるもの」の観覧を受け入れた。閲覧室も予約者のみの利用とし、会議室は予約済みの利用者に利用自粛を要請した上、新規予約を停止した。年度末に開催した講演会では定員を50%とした。

6. 利用者の満足度

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
満足度調査の実施内容	(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口に常時用紙を備え、利用者に記入していただくなど、簡便な方法で随時に実施するアンケート (2) 詳細アンケート アンケート用紙を利用者に一斉に送付し、回収・分析するなど、詳細な内容で定期的にも実施するアンケート	春季に予定していた「大岡昇平展」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、会期を秋へ延期して開催した。年齢構成では、入場者のうち65歳以下は約34.4%、65歳以上は26.6%。外出を制限されていなければ、もっと多くご年配の方が来館いただけたと考えられるので残念な限りである。また入場者の男女比は、昨秋の中島敦展はコミックス等とコラボの影響が大きく、男性26%、女性71%と圧倒的に女性が多かった。対し大岡展では、男性52.5%、女性41.5%で、男性の比率が高くなった。来館者アンケート回答では、県内及び都内からの来館者が82.9%となった。感染症拡大防止のため、遠出を控えた方が多かったと考えられる。展示については「満足」「どちらかといえば満足」をあわせ94.8%の高い評価を得た。今回は例年に比べ、Webアンケートの回答が一段と少なかった。感染症対策のため、ワークシートやWebアンケートのリンクQRチラシ等を配布できなかったことが要因と思われる。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 来館者：11. 以下の項目について、どのようにお感じになりましたか。>④全体評価 / Web：8. 利用なさっての全体評価をお願いします。

実施した調査の配布方法 受付等に配架、HP 回収数/配布数 133 / = 掲載

配布(サンプル)対象 来館者、HP利用者 ※項目未回答者あり

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	58	30	1	0	89	
回答率	65.2%	33.7%	1.1%	0.0%		
前年度の回答数	247	82	2	5	336	
前年度回答率	73.5%	24.4%	0.6%	1.5%		
回答率の対前年度比	88.7%	138.1%	188.8%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

【新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響
—
②令和2年度の対応状況
—

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計/支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	399,566	9,074	50,946	受取利息収入 32 事業収入 6,529 立替金収入 155 雑収入 538 退職給付引当預金 取崩収入 43,692	459,586	459,586	0	
	決算	399,566	14,024	50,993	受取利息収入 15 事業収入 5,715 立替金収入 1,274 雑収入 297 退職給付引当預金 取崩収入 43,692	464,583	464,579	4	100.00%
前年度	当初予算	407,222	9,209	48,044	受取利息収入 16 事業収入 6,729 立替金収入 157 雑収入 538 退職給付引当預金 取崩収入 40,604	464,475	464,475	0	
	決算	407,222	15,037	47,066	受取利息収入 15 事業収入 6,050 立替金収入 146 雑収入 251 退職給付引当預金 取崩収入 40,604	469,325	469,324	1	100.00%
令和2年度	当初予算	407,171	9,259	49,433	事業収入 6,729 立替金収入 157 雑収入 538 受取利息収入・ 退職給付引当預金 取崩収入 42,009	465,863	465,863	0	
	決算	412,860	2,919	2,017	事業収入 1,598 立替金収入 72 雑収入 317 受取利息収入 10 寄付金収入 20	417,796	417,794	2	100.00%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数			(単位:千円)
令和2年度 /	前年度 /	前々年度 /	

<p><備考></p>

【新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響と対応状況】
(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響

当初県から出ていた8月31日までの全館休館要請を受け、展覧会会期の変更を行ったため、GWを含む春の特別展、親子連れの多く訪れる夏の企画展が開催できなかった。6月13日から感染症対策を講じた上で常設展(9月27日まで)での再開となったが、この期間の観覧料収入は予算額2,777千円に対し、実績額396千円であった。秋の大岡昇平展は、全期間の開催ができたが、冬の金達寿展は会期中で中断し、年間では予算額6,573千円に対し、実績額2,396千円と予算額の36.5%(前年度比19.8%)に留まった。会議室使用料については、休館期間中だけでなく、8月31日までの利用全面停止に加え、令和2年1月12日～3月31日も予約済みの利用者に利用自粛を要請し新規予約停止したため、予算額2,686千円に対し実績額523千円と予算額の19.5%(前年度比17.8%)となった。刊行物販売収入、講演会収入もそれぞれ予算額の約25%となった。なお、支出について減額補正により執行額を抑制し、収支の均衡を図った。

②令和2年度の対応状況

収支状況の改善に向けて、経費削減に努めたほか、県の影響額調査に基づく指定管理費補正対応を受けた。また、文化庁の博物館向け感染症対策事業による日本博物館協会の「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」に申請し補助金支給を受けた。

8. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	アンケート	1 件	洗面所が入館チケットカウンターの先があり、喫茶室の利用者が使用時に躊躇する。	設置場所の移動は難しいが、表示や接客などを工夫し利便性の向上を図るよう努める。
職員対応		件		
事業内容	アンケート	1 件	ワークシートがなくて残念。	秋の大岡昇平展では感染拡大防止に配慮しワークシートの作成を見送ったが、年度末の新青年展では作成した。
その他	電話	1 件	県内図書館、国立、都立のミュージアムや県の芸術劇場は営業しているのに、何故休館延長するのか。	県からの要請に従って休館を延長した旨を説明した。

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	なし	
職員の配置体制	なし	
労働時間	なし	
職場環境	なし	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。